

理事会だより ～第1回～

理事会は、通常総会で議決された18人の理事と2人の監事によって構成され、一期2年の任期で、学会内のいろいろな仕事を分担して受け持っています。理事会はどんなことを行っているのか、会員のみなさんにもご理解いただけるように、今回、「理事会だより」というコーナーを企画しました。

掲載は不定期となりますが、理事がそれぞれの担当内容について、わかりやすく説明します。ぜひお読みいただき、学会活動に対して興味をもっていただけたら大変幸いです。どうぞよろしくお願いします。

★3月の理事会から

会員の皆さんに本学会の活動をもっとよく知ってもらおう、という趣旨で『理事会だより』というコーナーが設けられました。初回は学会長が書くようにとのご指名がありましたので、理事会の概要と今検討していることについてご紹介します。

現在、年5回ほど理事会が開催されています。理事会の仕事は多岐にわたっており、総務、編集、財務、年会運営、企画、広報といった委員会を理事が分担して運営し、それぞれ実務を行っています。理事会では、対外活動も含めたこれら委員会活動や学会運営全般の議論を行っています。こうした活動などを『理事会だより』で順次報告していく予定です。

今回は、3月の理事会で行われた議論からトピックスを2つ紹介します。年会は学会における学術交流活動の中心ですが、4年前より領域制に基づいたプログラム編成が行われています。基礎、応用、核融合プラズマ、核融合炉工学の4つの領域が、それぞれ領域担当理事を中心に、関連する他学会などと連携してオーガナイズドセッションやシンポジウムを企画・立案し、新しい視点による年会プログラムの充実を図ってきています。こうした領域活動を年会のプログラム編成に限らず、さらに活性化させて、学会全体のアクティビティの向上に繋げられないかという議論が行われました。各領域担当理事から現状と今後の取り組みの方向性について報告があり、他学会との連携をさらに進めるとともに、学会内において縦割りにならないように、領域間の連携を強化して、学際的分野への展開を目指す方向性が検討されました。また、領域活動の見える化が必要で、領域Webページによる広報の充実、領域別メーリングリストの活用等も議論されました。

昨年12月の国連総会で、2022年6月からの1年間を「持続可能な発展のための国際基礎科学年(IYBSSD: The International Year of Basic Sciences for Sustainable Development)」とすることが決議されました。これは、持続可能な発展のための基礎科学の重要性を認識し、それを一層高めるようアピールするもので、日本学術会議の呼びかけに応じ、本学会としても参画・協賛して、関連する取り組みを推進することとしました。また、地球温暖化防止に向けたカーボンニュートラル実現に対して、プラズマ・核融合分野が果たすべき期待される学術的貢献と役割について、本学会として広く社会に向けたアピールを発出する検討を行うこととしました。こうした対外的な取り組みも理事会で議論されています。

会長 竹入康彦